

令和6年度 第2回神奈川県合同輸血療法委員会世話人会 議事録

I. 日 時：令和6年11月5日（火）18：30～20：10

II. 場 所：神奈川県赤十字血液センター会議室

III. 参加者：

世話人：野崎先生（議長）、諸角課長、大久保先生、田中先生、三津田先生、
宮崎先生、大谷先生、田部先生、小川先生、山崎先生、豊崎先生、
渋谷先生、萩原先生、原田先生、佐藤先生、横沢先生

アドバイザー：寺内先生、浦谷先生、牧野先生、高橋先生、

IV. 本日の議事と内容

1. 議長挨拶

野崎先生より挨拶。

2. 前回議事要旨の確認【資料1】

資料1の議事要旨を議事録として、今回から合同輸血療法委員会のHPに掲載させていただきたいと考えているがよろしいか。（野崎）

⇒各先生方からのご意見

合同輸血療法委員会の活性化が厚生労働省の基本方針の中に入った。全国で合同輸血療法委員会の活動内容をアンケート調査しているが、議事録をHPに掲載している委員会が多い。内容としてはこの内容で議事録として掲載して十分だと思う。（牧野）

→一同承認し、今回議事録からHP掲載することとなった。（過去分掲載は不要）

3. R6年度今後の活動について

第19回神奈川県合同輸血療法委員会

令和7年1月11日（土）14：30～ （横浜市南区公会堂）

世話人メンバーは可能な範囲で13：30ごろから集まっていたきたい。（野崎）

→一同承認。

第3回世話人会

令和7年3月10日（月） （神奈川県赤十字血液センター会議室）

→一同承認。

4. R6 年度第 19 回神奈川県合同輸血療法委員会の内容について

1) プログラムについて【資料 2】

第 1 部 特別講演

→資料 2 を確認すること。タイムスケジュールについては元案から多少修正する。

(野崎)

第 2 部 適正使用実践のための実態調査・結果報告

看護部会小委員会からの報告 【資料 3・資料 4】

→資料 3、資料 4 を確認すること。

担当者不在のため意見があればメーリングにて送ってほしい。(野崎)

臨床検査部会小委員会からの報告 【資料 5・資料 6】

・カンファレンス【資料 5】について説明(小川)

各医療機関にて困りごとが生じた際の参考になるように、カンファレンスでのディスカッションの結果を小冊子のような形にして配布、もしくは HP 掲載を考えている。内容について間違い等がないか、メーリングでご確認・ご意見いただきたい。掲載内容が必ずしも全ての正解であるわけではないという注意書きは加える予定である。

⇒各先生方からのご意見

・みなさんが持ち寄った疑問だったので、活発に議論されていた。同じような悩みを持っている人が多かったので、HP 掲載するという案は賛成。(豊崎)

・回答が間違っている可能性があるため、メーリングでチェックは必要。(野崎)

・HP や冊子などで残すのは賛成。血液製剤使用実態調査のデータなども合わせて引用掲載できると良い。(牧野)

・アンケートの結果や、討論の結果を掲載、発表するだけでなく、強調したいことは何かをまとめて伝える必要がある。看護部会のアンケート結果についても、その結果から何を伝えたいのかを加えた方が良い。臨床検査部会 3 枚目のスライドの疑問・困りごととのところで、「〇〇と〇〇の照合方法」というように、分かりやすく誤解のないように修正した方が良い。(高橋)

・結果に対して神奈川県合同輸血療法委員会として何ができるかというメッセージを、それぞれの発表に 1 枚ずつは最低加えるように私からも指示する。(野崎)

→インパクトの強い議題や、特に困っている議題についてピックアップして発表する。(小川)

・輸血同意書動画について説明（浦谷）

内容は指針に沿って製作した。同意書取得時に説明すべき項目の中で、特に定型化されたものについてまとめた動画になっている。内容については日本輸血・細胞治療学会のHPに掲載されている同意書のフォーマットに沿った内容。動画をご覧いただき、お気づきの点があればご意見いただきたい。

⇒各先生方からのご意見

- ・非常にクオリティが高く大変な力作であると思う。著作権は問題ないか。動画の最後に、指針やガイドラインからの引用という案内を加えた方が安全かと思う。（野崎）

→著作権については問題ないものを使用している。（浦谷）

- ・当日は発表の経緯の説明に留めるのか。倍速などで短い時間でも動画自体を見ていただくと説得力があると思う。（野崎）

→動画作成の目的は、タスクシフトの中で医師以外でも同意書の説明ができるようにしたいというところから始まっている。新百合ヶ丘総合病院では既に運用されており、動画をHPに動画を掲載していることで、患者さんとご家族と一緒に動画を見ることができる。同様のことを神奈川県として取り組むことで、県内の病院のタスクシフトの一助になればと考えた。動画自体は各先生方に確認いただいたうえで神奈川県合同輸血療法委員会HPに掲載し、合同輸血療法委員会当日にはなぜこの動画を作成したのかをしっかりと説明することが、各医療機関で活用いただくうえで大切だと考えている。（小川）

→新百合ヶ丘総合病院の導入としては、タスクシフトを輸血部門で考えるところから始まった。検査技師が同意書を説明するには知識や技術が不足している部分があったため、誰でも同じような説明ができるように動画にすることになった。医師が同意書を準備する際に、動画の案内を一緒に印刷している。「いつでも、どこでも、誰とでも、何回でも見られる」ということがポイントである。患者さんにアンケートを取ると、「何回も見られてよかった」「イラストがあるので分かりやすかった」という意見があった。10分くらいの動画で、医療従事者に見せると長く感じるが、患者さんにとっては長いというアンケート結果は出ていない。（寺内）

・大変な力作であり、患者さんにとっても非常にありがたい動画だと思う。気になる点としては、輸血副作用がもし起きてしまった時の対応や、献血者のスクリーニング検査が進化して感染症リスクは減少している点などについても触れられたら良い。副作用の頻度について「不明です」という言葉は患者さんにとって怖い。「極めて稀」や「正確な数値は無い」などの言葉を使った方が良い。血液製剤の分類について、血漿分画製剤についても具体的な名称を加えて説明した方が良い。9～10分は長いとは感じない。輸血を控える患者さんはいろいろなところから情報を得ようとする。輸血というものは患者さんにとって怖がられているため、ネガティブな側面ばかりを多く

伝えてしまうと不安になる。極めて稀な副作用や感染症についても後から因果関係を確認できるようにするために検体を保管しているなど、検体を保管する目的などもストレートに伝えた方がよい。医療従事者の中には、輸血の副作用対策がどのように進んできたのか、現状はどうかを知らない医師や看護師も多いので、このような動画は非常に役立つと思う。(高橋)

→分画製剤については今回最初から外していた。分画製剤については別動画で作れればと思っている。それ以外の部分で直せる部分は直したい。動画リンクを後ほど事務局からメーリングで共有してもらうので、内容確認いただき他にもご意見あればいただきたい。(浦谷)

- ・患者さんの立場になると、医師から治療について説明を受けた後で輸血についての説明を受けても頭に入らないことがあるので、後から見直せる動画というのはすごく良いと思う。患者さんにとっては、シンプルで全ての内容を含んでいることが理想。動画の暗さが少し気になったが、スクリーン投影の影響かもしれないので後ほどリンクから手元で確認したいと思う。(牧野)

- ・2回目以降の同意書を医師以外で取得している施設はあるか。(野崎)

→東海大学病院では去年から血液内科の患者をメインに、看護師が同意書について説明している。医師以外の方が質問しやすく良いようだ。動画の運用方法について、新百合ヶ丘ではどのようにしているのか。神奈川県HPに動画を掲載して、二次元コードなどで展開できると良い。(豊崎)

→院内のHPに掲載し、その二次元コードを掲載したお知らせ文を同意書と一緒に配布している。採血室にタブレットも置いており、それも活用できるようにしている。動画の再生回数を見ると、患者さんが100%見ているわけではないという実態はある。また院内の教育としても動画を活用している。(寺内)

- ・メーリングで供覧したのちにご意見があればいただきたい。(野崎)

- ・認証アンケート【資料6】について説明(山崎)

⇒各先生方からのご意見

- ・輸血過誤をどう防ぐかという問題は昔からあり、1999年に日本輸血・細胞治療学会が中心となってどの部署で、どの時間帯で起きているのか等の解析を柴田先生が論文にもまとめられている。今回の調査では、最終的な製剤と患者の照合についての内容だと思うが、自己血輸血でも取り違えのリスクはいつも考えなければならない。本調査の目的のところで、輸血の安全性を高めるための大事な項目として輸血過誤を防止するために、検査室内での取り違え、輸送時の取り違え、最終的にベッドサイドでの取り違えについて、このどこかで照合ができない場合には輸血を中止する必要があるということを最初に伝えた方がよい。それから神奈川県内の医療機関における輸血の臨床確認の実態調査結果を話すような流れにして、メリハリをつけて発表すると良

い。過誤のいろいろな可能性に関して、柴田先生がまとめられた輸血実施時のチェックポイントも紹介し、その中で今回は照合について取り扱うということを明示した方が良い。優れた臨床医でも、輸血過誤についての認識が甘い人がある。医師が最終的な照合に参加しないという現状も、そのような認識の甘さが影響していると思う。輸血部門の人間以外に、輸血を実施する現場の人間の意識を高めることがすごく大事である。アンケート調査で協調したい部分をしっかりと伝えた方が良い。膨大なアンケート結果はうまくまとめて、見過ごせない部分、うまくいっている部分をそれぞれ1行ずつくらいにまとめて発表すると良い。発表についてはまとめたものだけに留めて、生データについては参考資料として印刷などをして持って帰ってもらうようにしても良いかもしれない。(高橋)

- ・ 30 分くらいの発表時間として、スライド枚数は 40～50 枚くらいにまとめた方が良い。それ以外の調査結果については、内部資料とするか、もしくは配布資料とするか、検討してほしい。短い準備期間でまとめていただき感謝する。(野崎)
 - ・ 患者 ID をベッドサイドでも確認していないという 22 施設は、どのような施設なのか。設問を間違えや、回答エラーのようなものではないか。管理部門アンケートということで、ベッドサイドのことは知らないという意味で回答してしまった可能性もあるのではないか。(豊崎)
- データを見ると、疑問を抱く回答結果もあった。怪しい回答については内容を確認し吟味したいと思う。(山崎)

発表者・座長について

座長は医師と臨床検査技師のペアが良いと思うが、推薦・立候補はあるか。(野崎)

→ 推薦・立候補がなかったため保留となった。メーリング等で相談する。

2) 共催・後援について【資料 7】

資料 2 下部に記載の共催・後援で問題ないか。(藤井)

→ 一同承認。

5. その他

- ・ **神奈川県合同輸血療法委員会 HP への議事録掲載について**

→ 今回議事録から合同輸血療法委員会 HP に掲載することで承認された。

- ・ **神奈川県における災害時の輸血療法マニュアルに関する問い合わせについて**

→ 大変好評で、1 月 24 日宮城県、1 月 25 日秋田県、2 月島根県で講演依頼があった。秋田と島根については小川先生に講演依頼し、承諾いただいた。宮城について、豊崎先生にお願いできないかと考えている。(野崎)

⇒先生方からのご意見

- ・ 秋季シンポジウムでは立ち見が出るほど非常に多くの方に拝聴いただき、反響があった。想定はあってもなかなか手を付けられないテーマであり、県としてのマニュアル作成は非常に重要であり、参考になる。(牧野)

・ 来年の合同輸血療法委員会の講演で取り上げたい内容について

- ・ 埼玉医科大学の松岡先生に J-HeST について依頼したい。(野崎)

→賛成 (大谷)

- ・ 赤血球の前駆細胞を用いた不規則抗体同定について取り上げるのはどうか。日本赤十字社で検討が始まっているということだが、一般の病院でも使えるようになったら検査がより効率化できる。(寺内)

→2本立てのテーマも可能。希望があれば引き続きご意見いただきたい。(野崎)

事務局 神奈川県赤十字血液センター 学術情報・供給課